

# Windom 2014 年度藤田保健衛生大学医学部後期《物理解答》

## 第1問

問1 原点から打ち出されて折り返し、再び原点に戻るまでに4秒を要しているの、原点から折り返し点に到達するのに要する時間は半分の2秒である。

荷電粒子の速度の  $x$  成分,  $y$  成分をそれぞれ  $v_x, v_y$ , 加速度の  $x$  成分,  $y$  成分をそれぞれ  $a_x, a_y$  とおくと,

原点から打ち出されて折り返し点に到達するまでについて,

$$3g = v_x \times 2 + \frac{1}{2} a_x \times 2^2 \quad \dots\dots ①$$

$$4g = v_y \times 2 + \frac{1}{2} a_y \times 2^2 \quad \dots\dots ②$$

が成り立ち、折り返し点から再び原点に到達するまでについて,

$$0 - 3g = \frac{1}{2} a_x \times 2^2 \quad \dots\dots ③$$

$$0 - 4g = \frac{1}{2} a_y \times 2^2 \quad \dots\dots ④$$

③, ④より,

$$a_x = -\frac{3}{2}g, \quad a_y = -2g$$

これらをそれぞれ①, ②に代入すると,

$$v_x = 3g, \quad v_y = 4g$$

以上より、初速度の大きさ  $v$  は,

$$v = \sqrt{v_x^2 + v_y^2} = \sqrt{(3g)^2 + (4g)^2} = \underline{\underline{5g}}$$

問2 電場から受ける力を  $F$  とし、 $x$  成分および  $y$  成分をそれぞれ  $F_x, F_y$  とおく。

$x$  軸方向および  $y$  軸方向(鉛直方向)についてそれぞれ運動方程式を書き出すと、荷電粒子の質量を  $M$  として,

$$Ma_x = F_x, \quad Ma_y = Mg + F_y$$

問1より, 
$$F_x = -\frac{3}{2}Mg, \quad F_y = -Mg$$

よって, 
$$F = \sqrt{F_x^2 + F_y^2} = \sqrt{\left(-\frac{3}{2}Mg\right)^2 + (-Mg)^2} = \frac{\sqrt{13}}{2}Mg \quad \text{よって, } \underline{\underline{\frac{\sqrt{13}}{2}}}$$
 倍

問3 
$$\tan \theta = \frac{|F_y|}{|F_x|} = \frac{Mg}{\frac{3}{2}Mg} = \underline{\underline{\frac{2}{3}}}$$

問4 初速度は  $v = 5g$  であり、 $y$  軸方向の加速度は  $a_y = -2g$  であったから、最高点の座標を  $y$  とおくと,

$$0^2 - (5g)^2 = 2(-2g)y \quad \therefore y = \frac{25}{4}g$$

問5  $0 = vt + \frac{1}{2}at^2$  より,

$$0 = 5t + \frac{1}{2} \times (-2g)t^2$$

$$= 5t - t^2 \quad \therefore t = 0, 5 \quad \text{よって, 5秒後に床に到達する。}$$

また,  $x$  方向について, 床に到達するときの  $x$  座標を  $x$  とおくと,

$$x = 0 \times 5 + \frac{1}{2} \left( -\frac{3}{2}g \right) \times 5^2$$

$$= \underline{\underline{-\frac{75}{4}g}}$$

## 第2問

問1 A→Bは断熱過程であるから、

$$P_1 V_1^\gamma = P_2 V_2^\gamma$$

よって、
$$\frac{P_1}{P_2} = \left( \frac{V_2}{V_1} \right)^\gamma$$
$$= \left( \frac{V_2}{V_1} \right)^{\frac{4}{3}}$$

問2 状態B, Cそれぞれの絶対温度を $T_B$ ,  $T_C$ とおくと $T_B = \sqrt{2}T_C$ が成り立つ。

状態B, Cについて、ボイル・シャルルの法則より、
$$\frac{P_2 V_2}{T_B} = \frac{P_3 V_2}{T_C}$$

よって、
$$\frac{P_3}{P_2} = \frac{T_C}{T_B}$$
$$= \frac{1}{\sqrt{2}} = \frac{\sqrt{2}}{2}$$

問3 C→Dは断熱過程であるから、

$$P_3 V_2^\gamma = P_4 V_1^\gamma$$

$$P_4 = P_3 \left( \frac{V_2}{V_1} \right)^\gamma$$

両辺を $P_2$ で割ると、

$$\frac{P_4}{P_2} = \frac{P_3}{P_2} \left( \frac{V_2}{V_1} \right)^\gamma = \frac{\sqrt{2}}{2} \left( \frac{V_2}{V_1} \right)^{\frac{4}{3}} \quad (\text{問2より})$$

※ 状態B,Dについてのボイルシャルルの法則でも求めることは出来る。

問4 状態Dにおける絶対温度を $T_D$ とおくと、 $T_D = T_B$ である。

状態B, Dについて、ボイル・シャルルの法則より、

$$\frac{P_2 V_2}{T_B} = \frac{P_4 V_1}{T_D}$$

よって、
$$\frac{P_4}{P_2} \cdot \frac{V_1}{V_2} = \frac{T_D}{T_B}$$

$$\frac{P_4}{P_2} \cdot \frac{V_1}{V_2} = 1 \quad (T_D = T_B \text{より})$$

$$\frac{\sqrt{2}}{2} \left( \frac{V_2}{V_1} \right)^{\frac{4}{3}} \cdot \frac{V_1}{V_2} = 1 \quad (\text{問3より})$$

$$\left( \frac{V_2}{V_1} \right)^{\frac{1}{3}} = \sqrt{2}$$

$$\therefore \frac{V_2}{V_1} = 2\sqrt{2}$$

問5 状態Aにおける絶対温度を $T_A$ とおくと、状態A, Bについて、ボイル・シャルルの法則より、

$$\frac{P_1 V_1}{T_A} = \frac{P_2 V_2}{T_B}$$

よって、
$$\frac{P_1}{P_2} \cdot \frac{V_1}{V_2} = \frac{T_A}{T_B}$$

$$\left(\frac{V_2}{V_1}\right)^4 \cdot \frac{V_1}{V_2} = \frac{T_A}{T_B} \quad (\text{問1より})$$

$$\left(\frac{V_2}{V_1}\right)^3 = \frac{T_A}{T_B}$$

$$\sqrt{2} = \frac{T_A}{T_B} \quad (\text{問4より})$$

$$\therefore T_A = \sqrt{2}T_B = \sqrt{2}T_D$$

熱が入り出すのは定積過程のみで、気体は $B \rightarrow C$ のとき熱を放出し、 $D \rightarrow A$ のとき熱を吸収する。  
この気体の定積熱容量を $C_V$ とおくと、

$$\begin{aligned} Q_{out} &= C_V (T_B - T_C) \\ &= C_V (\sqrt{2} - 1)T_C \quad (T_B = \sqrt{2}T_C \text{より}) \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} Q_{in} &= C_V (T_A - T_D) \\ &= C_V (\sqrt{2} - 1)T_D = C_V (2 - \sqrt{2})T_C \quad (T_A = \sqrt{2}T_D \text{より}) \end{aligned}$$

よって、
$$\frac{Q_{out}}{Q_{in}} = \frac{C_V (\sqrt{2} - 1)T_C}{C_V (2 - \sqrt{2})T_C}$$

$$= \frac{1}{\sqrt{2}} = \underline{\underline{\frac{\sqrt{2}}{2}}}$$

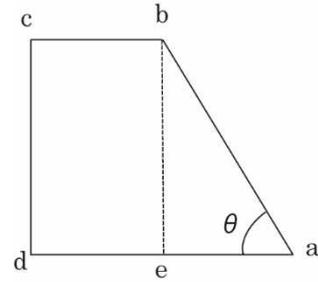
### 第3問

問1 右図のように点bから辺adに下ろした垂線の足を点eとすると、

$$\overline{ae} = \frac{L}{\tan \theta}$$

よって、  $ut_1 = \frac{L}{\tan \theta}$

$$\therefore t_1 = \frac{L}{u \tan \theta}$$



問2 時刻  $t$  における台形コイルと磁場の共通部分の面積を  $S$  とすると、

$$S = \frac{1}{2} \times ut \times ut \tan \theta$$

$$= \frac{1}{2} u^2 t^2 \tan \theta$$

両辺を微分すると、  $\frac{dS}{dt} = u^2 t \tan \theta$

よって、誘導起電力  $V_1$  は、

$$V_1 = \left| -\frac{d\Phi}{dt} \right| = \left| -\frac{d(BS)}{dt} \right| = \left| -B \frac{dS}{dt} \right| = B \times u^2 t \tan \theta = \underline{\underline{u^2 t B \tan \theta}}$$

問3  $t_1 \leq t < t_2$  のとき、  $\frac{dS}{dt} = u \times L$  であるから、誘導起電力  $V_2$  は、

$$V_2 = \left| -B \frac{dS}{dt} \right| = \underline{\underline{uLB}}$$

問4  $x$  成分は、辺  $ab$  が受ける力の  $x$  成分のみで構成される。電流はコイルを時計回りに流れるので、辺  $ab$  が受ける力は内側向きである。時刻  $t$  における辺  $ab$  と磁場の共通部分の長さを  $l_{ab}$  とおくと、

$$l_{ab} = \frac{ut}{\cos \theta}$$

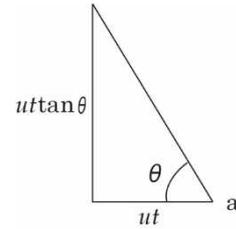
よって、辺  $ab$  が受ける力の  $x$  成分  $F_x$  は、コイルに流れる電流の大きさを  $I$  とおくと、

$$\begin{aligned} F_x &= -IBl_{ab} \cos\left(\frac{\pi}{2} - \theta\right) \\ &= -\frac{V_1}{R} B \cdot \frac{ut}{\cos \theta} \cdot \sin \theta \\ &= -\frac{u^2 t B \tan \theta}{R} \cdot B \cdot \frac{ut}{\cos \theta} \sin \theta \\ &= -\frac{u^3 t^2 B^2 \tan^2 \theta}{R} \end{aligned}$$

$y$  成分は、辺  $ab$  が受ける力の  $y$  成分と辺  $ad$  が受ける力で構成される。

辺  $ab$  が受ける力を  $F_{y, ab}$  とおくと、力の向きは  $y$  軸の負の向きなので、

$$F_{y, ab} = -IBl_{ab} \sin\left(\frac{\pi}{2} - \theta\right)$$



$$\begin{aligned}
&= -\frac{V_1}{R} \cdot B \frac{ut}{\cos \theta} \cdot \cos \theta \\
&= -\frac{u^2 t B \tan \theta}{R} \cdot B \frac{ut}{\cos \theta} \cdot \cos \theta \\
&= -\frac{u^3 t^2 B^2 \tan \theta}{R}
\end{aligned}$$

時刻  $t$  における辺  $ad$  と磁場の共通部分の長さを  $l_{ad}$  とおき、

辺  $ad$  が受ける力を  $F_{y, ad}$  とおくと、力の向きは  $y$  軸の正の向きなので、

$$\begin{aligned}
F_{y, ad} &= IB l_{ad} \\
&= \frac{V_1}{R} \cdot B \cdot ut = \frac{u^2 t B \tan \theta}{R} \cdot B \cdot ut = \frac{u^3 t^2 B^2 \tan \theta}{R}
\end{aligned}$$

以上より、生じる力の  $y$  成分  $F_y$  は、

$$\begin{aligned}
F_y &= F_{y, ab} + F_{y, ad} \\
&= -\frac{u^3 t^2 B^2 \tan \theta}{R} + \frac{u^3 t^2 B^2 \tan \theta}{R} = \underline{\underline{0}}
\end{aligned}$$

問 5  $0 \leq t < t_1$  における消費電力  $P_1$  は、

$$\begin{aligned}
P_1 &= \frac{V_1^2}{R} \\
&= \frac{(u^2 t B \tan \theta)^2}{R} = \underline{\underline{\frac{u^4 t^2 B^2 \tan^2 \theta}{R}}}
\end{aligned}$$

問 6

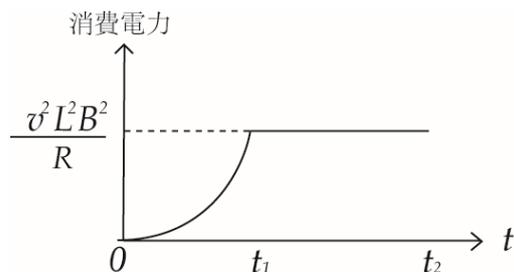
$t_1 \leq t < t_2$  における消費電力  $P_2$  は、

$$P_2 = \frac{V_2^2}{R} = \frac{(uLB)^2}{R} = \frac{u^2 L^2 B^2}{R}$$

また、 $t = t_1$  のとき、 $ut_1 \tan \theta = L$  となるので、

$$P_1 = \frac{u^4 t_1^2 B^2 \tan^2 \theta}{R} = \frac{u^2 L^2 B^2}{R}$$

以上より、グラフは図のようになる。



第4問

問1 作用させた力の大きさを  $F$  とおくと、斜面方向のつりあいより、

$$\underline{\underline{F = Mg \sin \theta}}$$

問2 重心  $G$  のまわりのモーメントのつりあいより、

$$N_{P1} \times L = N_{Q1} \times L$$

$$\therefore \underline{\underline{\frac{N_{Q1}}{N_{P1}} = 1}}$$

問3 ひもの張力を  $T$  とおくと、斜面方向の力のつりあいより、

$$\underline{\underline{T = Mg \sin \theta}}$$

問4 重心  $G$  のまわりのモーメントのつりあいより、

$$N_{P2} \times L = T \times D + N_{Q2} \times L$$

$$\text{問3より, } N_{P2}L = Mg \sin \theta D + N_{Q2}L$$

ここで、斜面に垂直な方向の力のつりあいより、 $N_{P2} + N_{Q2} = Mg \cos \theta$  であるから、

$$N_{P2}L = \frac{N_{P2} + N_{Q2}}{\cos \theta} \sin \theta D + N_{Q2}L$$

$$N_{Q2}(L + D \tan \theta) = N_{P2}(L - D \tan \theta)$$

$$\therefore \underline{\underline{\frac{N_{Q2}}{N_{P2}} = \frac{L - D \tan \theta}{L + D \tan \theta}}}$$

問5 問4の結果から、

$$N_{P2} = \frac{1}{2} \left( 1 + \frac{D}{L} \tan \theta \right) Mg \cos \theta$$

$$N_{Q2} = \frac{1}{2} \left( 1 - \frac{D}{L} \tan \theta \right) Mg \cos \theta$$

$N_{Q2} = 0$  のとき物体は転倒するので、

$$1 - \frac{D}{L} \tan \theta_c = 0$$

よって、 $\underline{\underline{\tan \theta_c = \frac{L}{D}}}$